

環保研聞録 ~I-RIEP Journal~



創刊号 2015年2月

「岩手県環境保健研究センター」では、県民のみなさんの健康といわての環境を守るため、健康・環境に関する科学的・技術的拠点として、次のような業務に取り組んでいます。

- ① 県民のみなさんの健康や環境に被害のおそれがある場合の対応
- ② 健康と環境を守るための試験検査・監視測定
- ③ 行政の課題に対応した調査研究
- ④ 技術支援・情報発信・研修指導

これから、「環保研(かんぽけん)センター」の取組や健康・環境に関する情報を定期的にお届けしていきます。

◆ 「一般公開」を開催しました！

去る10月4日(土)、年に一度の「一般公開」を開催しました。当日は、500人を超えるたくさんの方々にご来場いただきました。

環保研センターがどういう施設かご存じなかった方は、様々な展示や実験などを通して、当センターの取組を知っていただけたのではないかと思います。また、毎年楽しみにしていらっしゃるというリピーターの方も多いのが特徴です。今年も研究員が工夫を凝らした展示や実験を用意して開催しますので、どうぞお楽しみに！



違いがわかる？飲用水の飲み比べ中！（検査部）



-196℃！いろいろなものを凍らせる実験中（地球科学部）

◆ 特定健診・特定保健指導従事者研修会を開催しました！

保健科学部では、特定健診・特定保健指導に従事している方々のスキルアップを図るため、各種研修会を開催しています。

11月26日（水）に当センター大会議室において、行動変容に向けたアプローチからの禁煙支援の方法と、演習を通して禁煙指導を学ぶため、岩手医科大学歯学部口腔医学講座の相澤文恵助教をお迎えして、第1回保健指導従事者スキルアップ中央研修会を開催しました。

「特定保健指導における禁煙指導の実際」と題して相澤助教から講演いただいた後、演習を行ったほか、当センター保健科学部菊地主任専門研究員から「岩手県の特定健診・特定保健指導結果について」情報提供を行いました。当日は県内から53名が参加し、「講義中のロールプレイが指導の参考になった。」と大変好評でした。

また、12月16日（火）～17日（水）の2日間にわたり、特定保健指導結果の解析と評価、データヘルス計画や特定健診・特定保健指導第2期計画の進め方について学ぶため、国立保健医療科学院から今井博久統括研究官をお迎えして、保健指導企画評価研修会を開催しました。

「データヘルス計画及び特定健診・特定保健指導事業 第2期におけるPDCAサイクルの進め方～保健指導結果の解析、評価の実際～」と題して今井統括研究官から講演いただいた後、「C（評価）、A（改善）、P（計画）の実際～あなたの街の特定健診・特定保健指導事業 第2期の進め方を考えよう～」について演習を行いました。当日は県内から54名が参加し、「評価企画を具体的に振り返ってこなかったもので、これを機会に実施したい。」などの感想が聞かれました。

◆ 危険ドラッグ研修会を開催しました！

衛生科学部では、11月28日（金）に当センター大会議室において、職員の危険ドラッグに関する知識及び検査手法の向上を目的に外部講師2名を招いて「危険ドラッグ研修会」を開催しました。

保健所や科学捜査研究所、更に他県の衛生研究所からも参加いただき関係機関と情報共有を図ることができました。



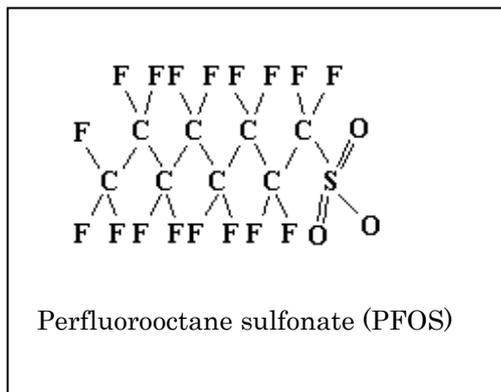
54名が参加しました

◆ 化学物質の分析法を開発しています！

環境科学部では、これまで国からの委託を受けて、多くの未規制化学物質の分析法を開発してきました。なかでも平成13年度に開発した有機フッ素化合物（PFOS PFOA）の分析法は、POPs条約（ストックホルム条約）において当該物質が規制された際の分析法の根幹になっています。

平成26年度は環境省の化学物質環境実態調査（エコ調査）の一端として、トリエタノールアミンの分析法を開発しています。

開発実績：PFOS、PFOA（水質、生物、底質、大気）、トリフェニルボラン、フェニトイン、ピペラジン、バナジウム、フルタミド、セリウム、コバルト、PFDoA、PFTeDA、PFHxDA、ダイレクタブラック38、4,4-ビピリジル、銀



PFOSの構造式

◆ 今注目の感染症はこれ！「RSウイルス感染症」

RSウイルス感染症は、RSウイルス（respiratory syncytial virus）を原因とする呼吸器感染症です。終生免疫は獲得されず、年齢を問わず生涯にわたり顕性感染を繰り返し、生後1歳までに半数以上の児が、2歳までにはほぼ100%の児が初感染を受けるとされています。症状は、軽い風邪の症状から重い肺炎までいろいろです。初めて感染した場合には、肺炎や細気管支炎など重篤な症状を起こす場合があります。無呼吸、ADH分泌異常症候群、急性脳症なども注意すべき合併症です。

例年、冬期に発生のパイクが見られますが、2012、2013年は9月上旬から報告数が増加し始めました。今シーズンは、第42週（10月中旬）から報告数が増加し始め、第44週に大きく増加しました。第45週には減少しましたが、第45週以降も、報告数の高い状況が続いています。今後の発生の動向に注意が必要です。（保健科学部）

RSウイルス感染症に関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html

◆ 「薬用植物研究」に原著論文が掲載されました！

地球科学部で行っている希少な動植物の調査研究の中で開発された技術の論文が有名誌に掲載されました。

新技術：ユリの新発芽法「種子カット法」の開発

（地球科学部 小山田智彰・山内貴義・鞍懸重和）

本研究では岩手県に自生しているヤマユリを材料に、新しい発芽法である「種子カット法」の開発を行いました。従来までの様々な発芽法と種子カット法の発芽試験を行いました。主にユリ生産者が行っている「温度処理法」の発芽は75日を要したのに対し、「種子カット法」では6日で発芽し、発芽率は最も高くなりました。発芽時の生育形態は、地上発芽の形態を示し、本葉の出芽が確認されました。世界に分布する野生ユリ18種に「種子カット法」を試した結果、供試全種について発芽及び同じ生育形態が確認されました。私たちが開発した「種子カット法」によって、ユリ科植物の発芽期間を大幅に早めることが可能となりました。

キーワード：ヤマユリ、種子カット法、温度処理法、地上発芽、本葉



温度処理法と種子カット法の発芽時の比較

試験開始から17か月経過した実生発芽の苗(左)と種子カット法の苗(右)の生育比較

※ 「薬用植物研究」36巻1号(2014年1号)

薬用植物栽培研究会(約30年前に、日本生薬学会の「栽培部会」関係者が連携して「センブリ研究会」として発足。センブリ栽培が軌道に乗った5年後に、「薬用植物栽培研究会」と変更し、多くの薬用植物の栽培を盛んにする目的で、会員の交流と情報交換を行っている。)が年2回発行する雑誌。

健康コラム～冬もノロウイルスに注意!～

食中毒は夏に多いと思われがちですが、実は冬にも多く発生しており、そのほとんどがノロウイルスによるものです。ノロウイルスによる食中毒は、年間の食中毒の患者数の約半分を占め、その約7割は11月から2月に発生しています。また、この時期の感染性胃腸炎の多くはノロウイルスによると考えられます。

ノロウイルスによる食中毒は、主に、調理従事者を介してノロウイルスに汚染された食品により発生します。ノロウイルスは感染力が強く、大規模な食中毒を起こしやすいため、注意が必要です。

手洗いの徹底など感染予防対策を万全にしておきましょう。(厚生労働省HPから)

<参考>

☆ノロウイルス等検出状況 2014/15 シーズン

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-noro.html>

☆ノロウイルスに関するQ&A(最終改定:平成26年11月19日)

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

☆ノロウイルス等の食中毒予防のための適切な手洗い(動画)

<http://www.youtube.com/watch?v=z7ifN95YVdM&feature=youtu.be>

【編集後記】

「岩手県環境保健研究センター」って、どんなところ?何をしているの?におこたえする広報誌を目指して創刊しました。今後、「環保研(かんぼけん)センター」の業務や活動の内容をお知らせしていきますので、よろしくお願いします。



《編集・発行》岩手県環境保健研究センター 企画情報部
盛岡市北飯岡一丁目11-16

TEL 019-656-5666 FAX 019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/index.html>

